



# 豊岡市立歴史博物館 ニュース

—但馬国府・国分寺館—

2016.3 第44号

豊岡市立歴史博物館  
—但馬国府・国分寺館—

〒669-5305 兵庫県豊岡市日高町柿布 808  
TEL 0796-42-6111 fax 0796-42-6112  
<http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>



白磁籠目花瓶 染付銘「大日本<sup>えいしんしゃ</sup>盈進社製」 出石神社蔵（撮影：加藤成文、提供：兵庫県立歴史博物館）



第37回  
企画展

自<sup>えいしんしゃ</sup>だけじゃない!

## 出石焼のあゆみ

出石焼は、江戸時代後期、原料の陶石が発見されたことにより本格的に作られ始めました。出石ではそれ以前にも陶器を生産していましたが、藩が産業として力を入れたのは磁器。磁器の出石焼は、多くの民間窯によって多様な製品が作られ、舟運を利用して山陰や北陸にも販路を広げていました。明治時代に入ると、出石焼の生産は失職した武士の仕事としても引き継がれ、製作技術の改良が続けられた結果、芸術の域にまで上り詰めたのです。

本展では、現在も出石そばに欠かせない器などとして使われ続けている出石焼の歩みを振り返ります。これを機に、本市で生まれた伝統工芸品の魅力を感じていただければ幸いです。

- 会 期 平成 28 年 3 月 18 日(金)～6 月 21 日(火)
- 展示協力 兵庫県立歴史博物館、兵庫陶芸美術館  
NPO 法人但馬國出石観光協会（順不同）

## ● 出石の地質と出石焼—陶石の発見—

白磁の出石焼は、「白よりも白」「白過ぎる白」と言われ、高い評価を得ています。その白さの理由は、良質な陶石にあります。出石から産出する陶石は、鉄分が少なく焼成後の白色度が高い良質なもので、寛政年間（1789～1801）に発見されました。

それ以前にも、出石には陶器の窯はありましたが、この頃には陶器よりも磁器の需要が高くなっていました。良質な陶石の発見により本格的に始まった磁器の出石焼は、時代の波に乗ってまたたく間に普及しました。



豊岡市出石町谷山の陶石採掘地

## ● 磁器生産の興隆—江戸時代後期の出石焼—

磁器生産が始まると、出石藩は窯業を重点産業として位置づけ、支援しました。そのため、天保年間（1830～1844）を中心に民間の窯が多く開かれました。民間窯の多くは小規模経営でしたが、盛んに活動。出石焼は一つのピークを迎えたのです。特に大黒屋（永喜山）は、日本海沿いに販路を開き流通業でも利益を得ていました。

この頃の出石焼は、青い文様が描かれた染付が中心で、花器や皿、茶碗、徳利などを生産していました。



染付葡萄図皿 個人蔵

## ● 芸術品となった出石焼—盈進社の設立と出石焼の改良—

明治9年（1876）、明治維新により職を失った武士を救済するため、<sup>えいしん</sup>盈進社が設立されました。盈進社では、肥前国（佐賀県）から伊万里焼の技術者を招き、高級品や芸術品を生産していました。その作品の最大の特徴は、精巧さ。明治10年（1877）には、パリ万国博覧会（フランス）や第1回内国勸業博覧会（東京）に出品されるなど、出石焼は一躍有名となったのです。

不景気のため盈進社は明治18年（1885）に廃業しますが、出石焼は友田安清によってさらなる改良が加えられます。友田は、新たな釉薬を開発し、出石焼に豊かな彩りをもたらしたのです。盈進社と友田の技術は、今も出石焼に大きな影響を与えています。



山水月出模様額皿 個人蔵  
（写真提供：兵庫県立歴史博物館）



籠目小鳥細工花瓶 豊岡市蔵



鮎文輪花形水盤 個人蔵

上・左：染付銘「大日本但馬國出石磁器會社 By The Artist Mr.Yasukiyo Tomoda of Izushi Porcelain Company Tajima Japan」

籠目小鳥細工花瓶 撮影：加藤成文、提供：兵庫県立歴史博物館  
鮎文輪花形水盤 撮影：加藤成文、提供：兵庫陶芸美術館

## ● 芸術品から日用品まで—出石焼の多様化—

明治以降、出石焼は徳利や土瓶などの日用品（並物）を中心に、花瓶などの美術品（上物）も作られていました。しかし、徳利はガラス瓶、土瓶はやかんの普及に押されて生産量は減少。上物の需要も少なく、経営不振に陥る窯が多くありました。

しかし、質の良くない原石からの製品化を成功させ、また生産費を抑えるなど、出石焼の発展に向けた改良は留まることなく続けられました。



大正時代の登り窯



白磁菊文籠形花入 個人蔵



白磁牡丹文籠形花入 個人蔵



染付祥瑞写耳付花瓶 個人蔵



染付松竹梅文花瓶 個人蔵



赤絵山水図煎茶器 個人蔵



染付草花文手焙 個人蔵

## ● 地域に根付いた出石焼

近年の出石焼は、美術工艺品や贈答品、風鈴といった観光客向けの土産品が主流。昭和55年（1980）には国の伝統工艺品に指定され、伝統技法の継承などの取り組みがおこなわれてきました。しかし、需要の減少や後継者不足など、出石焼の置かれている環境は厳しくなっています。その中で、出石焼などの白磁の器を使った出石そばは、出石を代表する観光資源の一つとなっています。



菊花文を彫り込んだ現代の出石焼



出石そばに欠かせない食器類

## 発掘調査が語る出石焼の窯跡

豊岡市教育委員会では、市を代表する伝統産業の一つである出石焼のあゆみを明らかにするため、平成 23 年（2011）から発掘調査や測量調査を実施しています。

調査では、出石焼発祥の窯である桜尾窯や、明治 34 年（1901）、出石焼の改良指導に招かれた友田安清が導入した徳利窯など、出石焼の生産方法の解明につながる発見が相次いでいます。



### 桜尾窯

桜尾窯は、天明 4 年（1784）に伊豆屋弥左衛門によって築かれた出石焼発祥の窯。当初は陶器を生産していましたが、肥前国から職人を招き、磁器の生産を始めました。発掘調査によって、5 房の焼成室をもつ連房式という登り窯であること、陶器には京焼・信楽焼の技術が用いられていたことが明らかになりました。



桜尾窯の発掘調査風景

### ひょうたまる 兵太丸窯

兵太丸窯は、寛政 5 年（1793）に桜尾窯と同じ伊豆屋弥左衛門によって築られました。しかし、生産や販売などの記録がなく、実態は不明です。

地形測量や採集された遺物から、桜尾窯と同じ連房式の登り窯で陶器を焼いていたことがわかりました。遺物の少なから、短期間の操業だったのでしょうか。



兵太丸窯の測量調査風景

### 徳利窯

徳利窯は、昭和 14 年（1939）に築かれた倒焰式とよぶ窯。桜尾窯や兵太丸窯のような連房式の登り窯に比べると小型ですが、構造は複雑。少ない燃料で安定的に焼成できる利点があります。



徳利窯の全景

## 関連事業のお知らせ

### ■対談「出石焼の魅力語る」

永澤兄弟製陶所の永澤仁さんと当館館長による対談です。  
日時：5月14日（土）午後1時30分～  
会場：豊岡市立歴史博物館 映像ホール  
\*聴講には入館料が必要です。予約は不要です。

### ■講演会「発掘調査が語る出石焼の窯跡」

日時：5月28日（土）午後1時30分～  
会場：豊岡市立歴史博物館 映像ホール  
講師：仲田周平（当館学芸員）  
\*聴講には入館料が必要です。予約は不要です。

### ■体験教室「出石焼絵付け体験」

日時：6月4日（土）午後1時30分～、2時30分～  
会場：豊岡市立歴史博物館 総合学習室  
参加費：2,000円 \*電話でお申込みください。定員各10名。  
他にも事業があります。詳細はホームページで。

## 豊岡市立歴史博物館のご利用案内



平成 27 年 4 月 1 日、館名が変わりました！

博物館キャラクター たじまろ・くひめ

■開館時間 午前 9 時～午後 5 時（入館は閉館 30 分前まで）

■休館日 水曜日（5/4 は開館します）  
年末年始（12 月 28 日～1 月 4 日）

■入館料 一般 500（400）円  
高校生 200（150）円  
小中学生 150（100）円  
\*（ ）は 20 名様以上の団体料金  
\* 県内小中学生は無料（ココロカードを提示してください）  
\* 65 歳以上の方、障害者手帳をお持ちの方は半額

■最新情報はホームページをご覧ください。  
<http://www3.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

■facebook ページ公開中！  
<http://www.facebook.com/tajima.kokubunjikan>